

～創発・共創によるデジタル・ガバメントの取組～ 障害者スポーツ文化センター「横浜ラポール」における デジタルソリューションを活用した実証実験のお知らせ

横浜市デジタル統括本部と「I・TOP 横浜」が連携し、障害者スポーツ文化センター「横浜ラポール」におけるデジタルを活用したサービス向上（新たなスポーツ機会の提供や、施設の利便性向上等）に資するデジタルソリューションについて6月から順次実証実験を開始しておりましたが、7月以降のスケジュールについて以下の通り決定しました。

実証実験を行う提案ソリューション及びスケジュール

1	音響通信による UD 防災ソリューション 【エヴィクサー株式会社】	非常放送設備の音声でサイネージ等の情報デバイスを制御し、災害情報の画面表示やフラッシュ、バイブ振動等による情報伝達サービスを提供。電波ではなく音響通信技術を用いた制御が特徴。
2022年7月5日（火） 13:00～14:00		
2	オンラインボッチャ 【オンラインボッチャ協会】	ボールを転がすためのランプ（スロープ）をオンライン（Zoom とタブレットを利用）で制御することで、誰でもどこでもボッチャが楽しめる環境を実現。
2022年8月3日（水） 14:30～16:00		
3	スマートフェンシング （スマート e スポーツ） 【大日本印刷株式会社】	柔らかい剣とスマートフォンアプリを活用し、障害や国籍、性別を問わず、誰でも・どこでも・安全・簡単・本格的にフェンシング競技を体験できる環境を提供。
2022年8月4日（木）、5日（金） ※詳細について調整中のため、決定し次第 WEB でお知らせいたします。		
4	スマートコーチ 【ソフトバンク株式会社】	遠隔地からでも ICT を活用して、現地でレッスンを受けているかのように、スポーツ指導や文化学習を受けることが可能となる、時間や場所に縛られないオンラインレッスンツールの提供。
※詳細について調整中のため、決定し次第 WEB でお知らせいたします。		

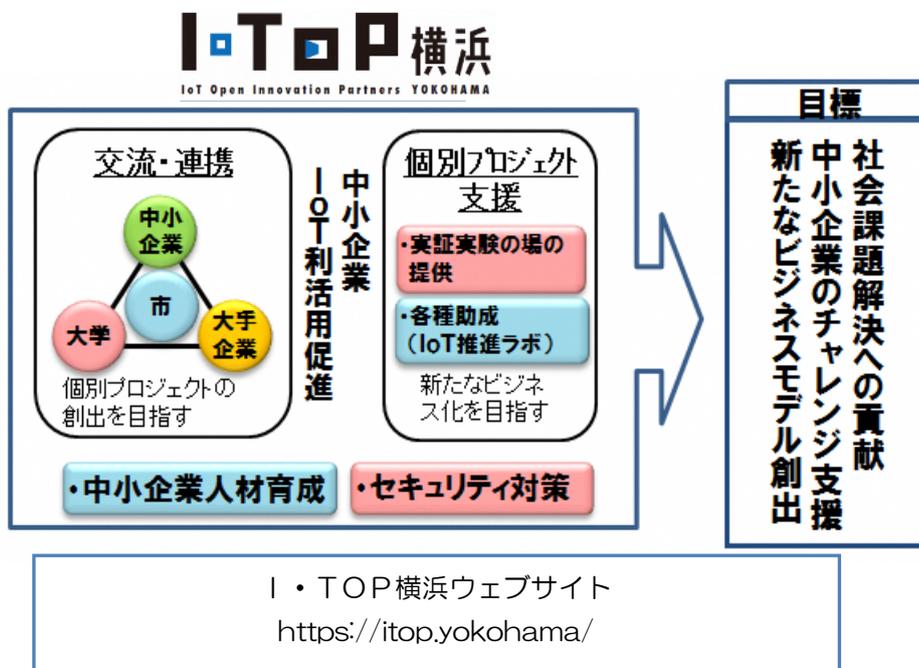
※既に日程発表済みのものを含む実証の詳細については以下の WEB サイトでお知らせしています。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/business/keizai/iot/itop/itoplab4.html>

I・TOP横浜(IoTオープンイノベーション・パートナーズ)とは

横浜経済の強みである「ものづくり・IT産業の集積」を活かし、IoT等(IoT、ビッグデータ、AI、ロボット等)を活用したビジネス創出に向けた、交流・連携、プロジェクト推進、人材育成等を包括的に進めていくプラットフォームです。これらの取組から個別プロジェクトを立ち上げ、「新たなビジネスモデル創出」、「中小企業のチャレンジ支援」、「社会課題解決への貢献」を目標としています。

その中で「I・TOP横浜ラボ」は、フィールドの提供主体とともに、解決を目指す課題を設定し、I・TOP横浜参画企業から課題に沿った提案の募集等を行い、実証実験を通じて、社会課題の解決や製品化・サービス化を目指します。



障害者スポーツ文化センター「横浜ラポール」について

横浜市における障害者スポーツ・文化活動推進の中核拠点施設として、1992年に設立。運営者は社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団。年間約40万人の利用(約半数が障害児者)、様々な障害の方が利用(肢体不自由の方が最も多く利用)。

【建物】 地下1階、地上3階

【主な施設】 アリーナ、25m×6コースの温水プール、フィットネスルーム、グラウンド、テニスコート、ボウリングルーム、創作工房等文化施設、手話通訳等の派遣

【実施可能競技】 車いすバスケットボール、電動車椅子サッカー、陸上、水泳、テニス、卓球、ボッチャ、アーチェリー、フライングディスク 等



〈創作工房の様子〉

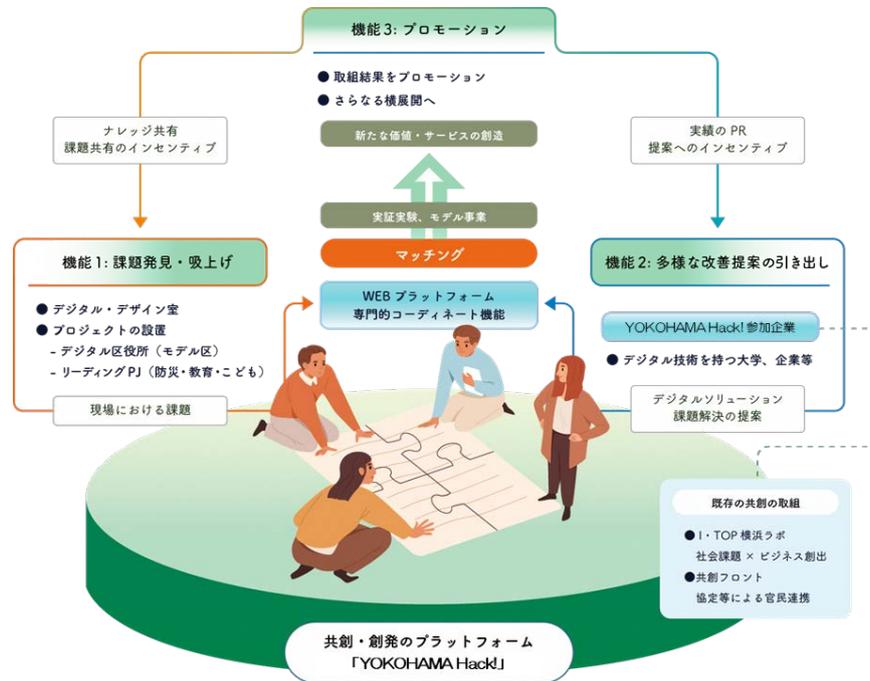


〈アーチェリーの様子〉

創発・共創によるデジタル・ガバメントの取組とは

横浜市デジタル統括本部では、横浜 DX 戦略の重点方針6に掲げる創発・共創とオープンイノベーションの仕組みとして、行政の業務やサービスにおける課題・改善要望（ニーズ）と、それを解決する民間企業等の皆様が有するデジタル技術（シーズ）提案をマッチングするオープンなプラットフォーム「YOKOHAMA Hack!（ヨコハマハック）」を立ち上げます。

各所管課が「今」抱えているニーズを集約・公開し、企業や大学、団体等の皆様が持っているデジタル技術をタイムリーに募ることができる環境を築き、これまでの仕組みとは異なる新たな取り組みとして解決策の創出を目指し、横浜のDXを推進します。



キックオフイベント「Y-Hack! Gate」を開催します！

日時:令和4年7月4日(月) 18時~19時30分

会場:横浜市役所1階 市民協働推進センター スペースA・B

対象:横浜市が抱える行政課題等を解決するために新しいサービスを生み出す意欲やソリューションを持つ民間企業、大学、団体等の皆様

【イベントプログラム】

- 1 山中竹春市長スピーチ 「YOKOHAMA Hack!」への期待
- 2 基調講演 「Well-Being 向上に向けた創発・共創の環境づくり」
南雲 岳彦 氏 (スマートシティ・インスティテュート専務理事)
- 3 横浜市のDX取組のプレゼンテーション
- 4 創発・共創の実証事業の募集テーマ (デジタル技術により解決したい行政課題) 発表
 - (1) 災害時における迅速・円滑な状況把握と効果的な情報発信に向けた映像等の活用
災害時に、刻々と変化する現場状況のより迅速で円滑な把握・共有や、市民の適切な判断を促す情報発信の充実強化を図りたい。映像情報等の活用などによる効果的な仕組みを模索する。
 - (2) 高齢者施設等の利用者の安全を守る避難確保計画の取組強化
要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進、計画の実効性向上、関係部署間での確実な情報共有を図りたい。計画の作成・管理の効率化などによる効果的な仕組みを模索する。
- 5 申込:以下のサイトから事前にお申込みください。

【YOKOHAMA Hack!サイト】 <https://hack.city.yokohama.lg.jp/>



お問合せ先

【創発・共創によるデジタル・ガバメントに関すること】	デジタル統括本部デジタル・デザイン室	谷口 智行	Tel 045-671-4761
【提案内容、I・TOP横浜に関すること】	経済局産業連携推進課	松本 圭市	Tel 045-671-3591
【横浜ラポールに関すること】	健康福祉局障害自立支援課	今井 智子	Tel 045-671-4130

※ 本件は、経済記者クラブにも配付しております。